

岐阜県の森林・林業

森もり林のたより

岐阜県立森林文化アカデミーでは、
森と木に関わるスペシャリストを育成しています。

No.773
2018 February

2

FREE

ご自由にお持ちください。



エンジニア科、クリエイター科林業専攻
森林獣害実習 森林被害状況や対策を学ぶ。捕獲獣の運びだしを体験。



クリエイター科森林環境教育専攻
森の面白さを伝える実習を繰り返すことで本当の力がつく。
(この日は中国からのお客さん)



クリエイター科木造建築専攻
木造建築の実務に参加し、リアルな設計業務を行います。
自分の関わった建物が実際に建つ「実践プロジェクト」。



クリエイター科木工専攻
丸太を割り、ナタで削り、スプーンを作る、グリーンウッドワークの授業。
伝統的な技法だからこそ、木の特性をより深く理解できます。

●講義にて、真剣に学んでいるエンジニア科、クリエイター科の学生達

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
2月2日(金)	平成29年度 森林・林業関係 合同発表会	<ul style="list-style-type: none"> ●時間：13:00~16:30 (終了予定) ●内容：林業普及指導、森林研究所、農林高校生等森林・林業関係者による合同発表会 ●定員：250名 (当日参加可能) 	関市わかさ・プラザ多目的ホール (関市若草通 2-1) ----- 森林文化アカデミー内 森林技術開発・支援センター TEL 0575-35-2535
2月16日(金)	平成29年度 岐阜県治山林道 研究発表会	岐阜県内の治山林道事業に携わる技術者が一堂に会し、日頃の研究成果を発表します。	関市わかさ・プラザ (関市若草通 2-1) ----- 森林整備課 / 058-272-8489 治山課 / 058-272-8526
2月19日(月) ~2月20日(火)	課題研究公表会	アカデミーでの2年間の学びの総仕上げとして、各自で設定した課題について研究発表を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ●参加費無料 ●当日参加可能 	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) ----- 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp/
2月26日(月) ~3月8日(木)	平成30年度 森林文化アカデミー 入学試験 (第5回) 願書受付期間	<ul style="list-style-type: none"> ●森と木のエンジニア科 (一般入試4) 3月18日 (日) ●森と木のクリエーター科 (入試5) 3月18日 (日) ●入学願書 (学生募集要項) については、ホームページ (http://www.forest.ac.jp/) からダウンロードできます。 	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) ----- 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp/



市況	18
林業者向けお知らせ	17
森林・山村多面的機能発揮交付金について	17
「100年先の森林づくり発表会」を開催しました	16
国有林の現場から (17)	15
治山林道研究課題	14
今、サクラが危ない！クヒアカツヤカミキリに注意を	14
研究コーナー	12
森林が少ない都市部での普及活動	12
森林配置計画の作成と身近な施設での県産材活用を通じて	12
普及コーナー	11
揖斐川町立やまと・きたがた幼稚園	11
木の香るぎふの施設 (60)	10
里山を伐採することで希少種を保全する	10
森林と人を活かす知恵 (62)	9
わがまちの森林・環境行政 (14) 多治見市の森林づくり	8
雪の中で切り株さがし、マイマイカブリ	8
山のおじゃまむし (319)	6
シリーズ：『森林・環境税』で、緑豊かな清流の国ぎふづくり (9)	5
地域の人コンテナ苗生産、県下第一号！	4
山の歳時記 (50) 輪かんじき 1	4
ぎふ木育指導員養成講座 ～わたしの木育宣言～	3
イベントカレンダー (一般向け)	2

岐阜県の森林・林業 News of the forest

森もりのたより

No.773 2
2018 February







表紙 ● 森林や木材に関わるさまざまな分野での活躍を目指して学んでいます。

ぎふ木育指導員養成講座

わたしの木育宣言

岐阜県では今、「ぎふ木育」の総合拠点として、「(仮称)木のふれあい館」の整備を進めています。

いつでも、だれでも、木のおもちゃ“に触れ、遊ぶことができる空間。そこから、森林とのつながりを感じ、意識を森林へと向けていただくキッカケとなる施設を目指しています。

そんな森と街、人をつなげていく伝道師が「ぎふ木育指導員」です。ぎふ木育に関する座学や実技を通じ、ぎふ木育に関する専門的な知識を習得した者が認定されます。

今年度は、高校生から50代までの幅広い年齢層の方、そして学生、保育士、児童館職員、木工家、大学教授など、多種多様な職種の方13名が養成講座を受講し、認定を受けました。

ここで、全8回の講座を振り返ってみます。

第1回、第2回では、森林文化アカデミーの松井教授、東京おもちゃ美術館の星野副館長、森のなりわい研究所の伊藤代表、グッド・ライフサポートセンターの中島事務局



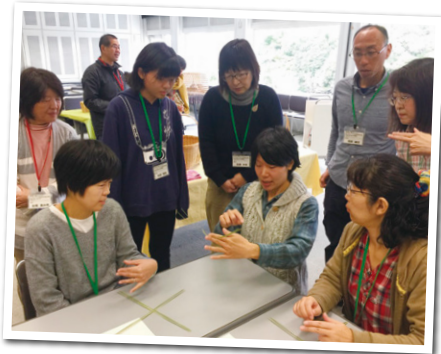
長といった多彩な講師陣のぎふ木育論を聞くことで、ぎふ木育のキーワードは「多様性」であることを学びました。

第3回では、木の小物を作りながら、会話をする「木育カフェ」の手法を学ぶとともに受講生相互のコミュニケーションを図りました。

第4回では、岐阜県美術館周辺にある自然に触れ、1本の樹と向き合うことで、街と森とのつながりに気づき、それを伝えていく手法を学びました。

第5回では、(株)郡上割り箸の小森氏による杉の伐倒の実演等、林業の現場見学やおもちゃ工場の見学を通じて、自然と人との関わりや人と人とのつながりを学びました。

第6回では、木のおもちゃ作家さん等を講師にお招きし、おもちゃ作りへの思いや郷土のものづくりについて学び、日々の暮らしの中にもものづくりや森林があったことを再確認する機会となりました。



第7回では、教材である“木のおもちゃ”を遊び込む中、子どもから年配の方まで幅広い世代に対し、木育を伝えるツールとしての“木のおもちゃ”の可能性を探ることができました。

そして最後の第8回では、これまでの学びを通じて、受講生一人ひとりに「わたしの木育宣言」を考えてもらい発表してもら

いました。受講生の宣言を少し紹介すると、「森のようちえんで「木育」を発展させます。」「自ら暮らしと森や木とのつながりをもっと深めます。」「ものの作られ方がわかる大人になります。」など、自分なりの木育論をみつけ、具体的な行動に向けた宣言が多くありました。今後、「ぎふ木育指導員」としてのご活躍に期待します。

(恵みの森づくり推進課 河合)

認定者13名

- | | |
|-------|-------|
| 沖廣真理子 | 小澤 歩美 |
| 杉山喜美恵 | 益満 雪絵 |
| 相原 健児 | 天野 拓 |
| 小野あつみ | 加藤 志保 |
| 池田 明美 | 青山 朋子 |
| 五十嵐円夏 | 岡本 恵太 |
| 松波 亜美 | |





文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

1月24日、何か面白いものはないかと散策していた高山市の「二十四日市」で、輪かんじきを見つけました。

かんじきは雪の中を歩くための必需品で、昔は豪雪地帯であればどこでも見られるものでしたが、今では登山用品店に行かないとなかなか見られなくなりました。

かんじきは漢字で「橐」または「橐」と表記されます。ちなみに「橐

は一般的にはソリと読みますが、飛騨市には橐田（かんじきた）という名字のお宅もあります。

履物研究の第一人者であり、『はきもの』の著者でもある潮田鉄雄先生によると、かんじきは用途や地域によって、泥水用や水田用の田下駄、雪上用の輪かんじき、氷上用の鉄かんじきなどに分けられるそうです。またこの類は、新石器時代に北欧から北アジア、北アメリカに伝わったとされ、北半球の各地で使われているそうです。

登山用品としてのかんじきは、木製の他にアルミパイプやナイロン樹脂のものもあり、最近では雪上を歩くことを目的としたスノーシュー (snowshoe) も使われています。

スノーシュー (snowshoe) とは西洋かんじきとも訳される雪上歩行具で、カナダなどではホワイトアツシュ (アメリカトネリコ) の割材に、

生皮 (rawhide) を編み上げたものが使われていました。これも最近ではプラスチックやジュラルミン製が多く、平地では浮力やラッセル能力が高い反面、急斜面でのとりまわしはかんじきに劣ります。

簡単に言えばかんじきは湿雪の斜面を歩くことに適し、スノーシューは乾雪の雪原や堅くなった雪原を歩くのに適しています。

旧徳山村 (現揖斐川町) では雪崩避けの呪文として、「まえクロモジに、あとポーシ」と唱えました。

また旧坂内村 (現揖斐川町) でも同じように、ユキノドウという雪の妖怪を撃退する呪文として、「先クロモジに後ポーシ、あめうじがわ (黄牛の皮) の八つ結ばえ、締めつけ履いたら、如何なるものも、かのうまい (敵うまい)」と唱え

ました。

これは雪の中を歩くために履く「輪かんじき」を作るのに、前の輪をクロモジ材で、後ろの輪をヤマボウシで作れば、丈夫で使い勝手の良いかんじきとなり、それを牛の皮で縛ることを伝えているのです。

俳句の世界では「かんじき」は冬の季語であり、明治・昭和の俳人、高浜虚子は「かんじきをはいて一歩や 雪の上」と詠みました。雪面に残る一歩、その足跡にも木を知り尽くした先人達の知恵が生きているのです。



▲クロモジとヤマボウシでつくったかんじき



山本さん

コンテナ苗生産、県下第一号！

中津樹苗

山本 太一さん

森林資源の充実を受け、全国的に皆伐施業が増加しています。しかしながら、材価の低迷により、その後の再造林を躊躇する現状があります。その再造林を低コストに行うアイテムとして、コンテナ苗の活用が国有林事業を発端として民有林へも広がっています。

コンテナ苗とは、容器（主にマルチキャビティコンテナ等）の中に土や肥料をいれて稚苗を育てたものです。一年程度でコルク栓状の根鉢を形成し、培土つきであるため、植栽時期を比較的选择ばない、活着率がいいということが普及しはじめました。

このコンテナ苗の生産に岐阜県でいち早く取り組んだのが、中津樹苗の山本太一さんです。山本さんに、その当時のこと、また、これからの取り組みについてお話を伺いました。

Q.コンテナ苗生産をはじめたきっかけは？

A. 父親から引き継ぎヒノキ裸苗を四十年ほど生産してきました。多いときで十万本近く生産していましたが、ここ最近、山での新植も少なく、生産しても売れず破棄することが多くなっていました。

そんな折、裸苗を出荷していた国有林職員の方から「今、全国的にコンテナ苗の活用が広がっているが、岐阜県では生産者がいない。この



ため、取り組んでみないか。」と話をいただいたことが始まりです。何分はじめてのことで、不安はありましたが、裸苗の需要がこのとおりだったので、藁をも掴む思いで始めました。

Q.苦労した点は？

A. ゼロからのスタートで不安はありましたが、岐阜県森林研究所の方に試験中の実物を見せてもらったり、育苗の知識をいただいたりして、背中を押してもらいました。

また、苗木を育てる技術はあったので助かりました。

育苗をはじめた当初（平成二十六年）は、資材費、施設費はすべて自己資金で賄いましたが、次年度から生産する方が増え、補助事業も新設されたので、負担が軽減されました。

Q.工夫した点は？

A. 基本にお金をかけないようにしています。自分の技術に沿って育苗環境を整えています。このため、散水施設を一年のうち三回作りかえることもありえます。県外の施設を見学したところ、コンテナの底上げを不要になった園芸用のカゴを利用していたので、そ



廃材を利用した底上げ

れも取り入れました。他の情報と自分の技術をブレンドして常に進展するように工夫しています。

Q. 樹苗生産のおもしろみは？

A. コンテナ苗生産を通じて、森林研究所の方をはじめ、みなさんとお付き合いできたことです。人と関わり、仕事も順調にいく、苗木生産も同じで、欲しい人に合せて物をつくるというのができる、人々を交えたこの循環がおもしろいです。

うちでつくる苗はほぼ地元の人に植えられています。山に植栽する前日に、事業者の方が一日に植える分だけとりこまます。「何本植えられる？」「苗の状態はどうだった？」と植える人の声を聞くようにしています。

Q. 今後の取り組みは？

A. 現在は裸苗からコンテナ苗へ生産は移行しています。コンテナ苗は年をとつてもできるので続けていきたいと考えています。年齢的に次の世代のことも考えていかなければなりません。自分の技術をマニュアル化して、引き継げるようにしていきたいと考えています。

山本さんの苗木生産技術と現場の造林・保育技術が重なり、再造林に向けての新たな展開になることを期待しています。

【恵那農林事務所 多賀 幸】

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0573-126-1111 内線(305)

恵那農林事務所まで

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

平成24年度より県民みんなで豊かな自然環境を守る仕組みとして導入した「清流の国ぎふ森林・環境税」は、平成33年度末まで5年間延長されました。税活用事業の内容も見直しをしましたので、新しい内容の事業を含め連載で紹介します。

用排水路・河川落差解消支援事業

■事業目的

河川と水田をつなぐ農業用排水路の多くは多種多様な魚類が生息し、自然豊かな環境となっています。

しかし中には、農業用排水路内にある落差（段差）により、河川と水田間の連続性が分断され、魚類の遡上が困難となっている箇所があります。

この落差を解消することで、水みちの連続性を回復させ、多種多様な魚類種を育む水田周辺の水域環境の再生を行います。

■実施内容



農業用排水路内の落差



魚類調査



●水みちの連続性の回復



落差解消前



落差解消後

魚が遡上するようになった！



①農業用排水路落差解消の整備

農業用排水路内の落差（段差）を解消するための整備を行います。

【事業主体：市町村等、補助率10/10以内（上限5,000千円）】

②河川－農地における生態系ネットワーク解析技術開発の支援

農業用排水路や水田といった面的な広がりを持った水みちの連続性を確保するため、魚類の生息状況と落差の因果関係を調査し、農業用排水路内の落差解消効果研究の支援を行います。

【実施主体：岐阜県水産研究所】

観光景観林整備事業 ～観光道路沿線の森林整備を支援する事業です～

県では、本年度より「第3期岐阜県森林づくり基本計画」がスタートし、望ましい森林配置への誘導や森林(人工林)の林齢構成の平準化を目指す「100年先の森林づくり」に取り組んでおります。

この中で観光道路等から眺望でき、景観としての価値が高く、観光客等呼び込み、地域の活性化等に資することができる森林について「観光景観林」として区分することとしております。

県では、「観光景観林」として公的関与の高い管理・整備を推進することによって、各地域で優れた森林景観の形成を促進するための森林整備について支援をしております。

■事業内容

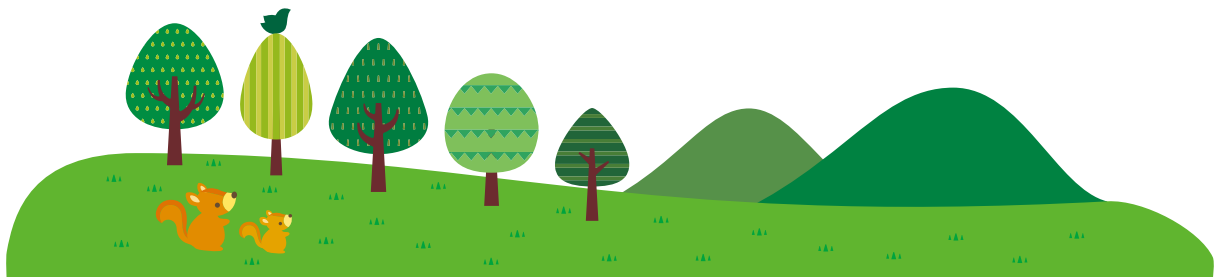
市町村において、「観光景観林」として区分された森林又は区分される予定の森林を整備する経費について助成します。

区 分	内 容
不用木の除去	除伐、間伐、枝打ち等
不用木の除去（伐採木の処理を含む）	上記に加え、枝払い、玉切等
景観形成のための植栽	広葉樹、針葉樹の植栽
伐採木等の搬出	伐採木、枯損木等の搬出

※補助率はそれぞれのメニューごとに上限単価を設定



整備された観光景観林（高山市内）





山のおじまむし



— 雪の中で切り株さがし、マイマイカブリ — 【第319回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

毎年12月になると喪中のはがきが届く。その数は年々増え、去年は10枚を超えた。「え、あの人が」、「まさか、なんで」、「まだ若いのに」。つい、こんな言葉を口にしてしまう。その1枚が虫の先輩A氏の奥様からだった。ショックだった。と言うより信じられなかった。A氏は82歳。しかし、そんな歳には見えない。精神年齢が若いのである。今年の年賀状には「このところ郷土の歴史、民俗、天産と植物にも目がいっています」と虫以外のことに興味を示し、やる気満々だったからである。無念だろうと心が痛んだ。私がA氏に会ったのは高校生の時だから50数年前。昆虫採集用具店のS商会である。当時、ここは高山市周辺の虫好き人間のたまり場。ここで私は先輩たちから虫の名前や採り方などを教えてもらった。その中の1人がA氏。我が家と自宅が近かったので、一緒に採集に出かけて直接指導を受けた。言うなれば先生だ。しかし、採集を始めると別。先生と競って虫を追いかけた。と言っても、当時は今のようにせせこましい? 時代でなく、おおらかであった。このため競ったとはいえ、のんびりした採集であった。そんな在りし日のA氏が脳裏を去来し、懐かしくなってきた。

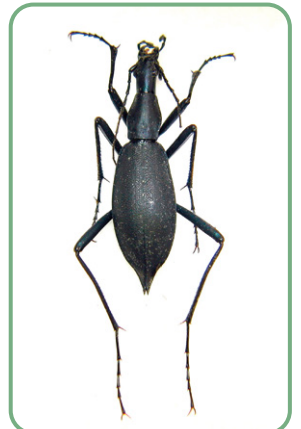
× × × ×

A氏との採集で、忘れられないのがマイマイカブリだ。この虫は、名前の通りマイマイ（カタツムリ）の殻に長い首を突っ込み、肉にかぶりつくという変わった虫だ。私がマイマイカブリを知ったのは高校生の時。その神秘的な姿に魅了された。しかし、この虫は翅が退化して飛べないので、地上を歩き回る。しかも夜間なので、採るのが難しい。それをAさんが採った。越冬しているものを切株の樹皮下で見つけたのである。私も採りたい一心で、A氏にそこへ連れて行ってもらった。当時は今のように暖冬ではない。寒いうえ雪が30cm以上も積もっていた。雪をかき分けて切株を探した。つらい採集だった。しかし、採れない。駄目だと諦めかけた時、A氏が「この切株にいるかも知れないよ」と指をさした。私は樹皮を剥いだ。驚いた。目の前には大きなマイマイカブリ。思わず「おった!」と口にした。嬉しかった。胸が熱くなった。今思えば、このマイマイカブリは、Aさんが気落ちしている私を喜ばせるために採らせてくれたのだ。そんな気がしてならない。

× × × ×

糞虫採集も忘れられない。この仲間の虫は動物の糞を食べているので、まさに「くそむし」だ。これをA氏と採りに行った。道に落ちている牛の糞を棒でつついて採した。しかしない。たまにいてもA氏ととりあいになった。挙げ句の果てが棒から素手になり、二人で競って糞をかき混ぜた。そのうちにコソを覚え、よく採れるようになった。カレーのような柔らかい糞にはいなく

て、メロンパン程度の堅さのものに多いことがわかってきたからである。次に馬糞を探した。勿論素手。感触はメロンパンよりやや堅めだった。これを二つに割った。中には数匹の糞虫。牛糞とは別の種だ。これがどの糞にもいたのでたくさん採れた。この日の糞虫採りは大収穫であった。ところがこの後が大変だった。爪の中に入り込んだ糞が取れないのである。どの爪も先端部は黄色に変色。見るからに不潔な手となったが、笑みを浮かべて帰宅。そして夕食となったが、この日はカレーライスでご飯の上はカレーが山盛。屋間に素手で触った牛糞のようで、さすがにカレーが好きな私でも食が進まなかった。数日後、この糞虫採りを職場の同僚に話した。その時、糞はどのように数えるのかと聞かれた。しかし、よい数え方が浮かばなかった。そこへ、自宅で牛馬を飼っている人が入ってきた。その人は、牛は「ひとたれ、ふたたれ」で、馬が「ひとこき、ふたこき」と簡単に答えた。皆は大笑い。そのことをA氏に話した。「牛は糞を垂れる」で「馬が糞をこく」か、実に含蓄ある言葉だと笑いだした。私もまた大笑いをした。



▲首の突き出したマイマイカブリ

× × × ×

欲を丸出しにしたような採集。これをA氏がしたことがある。私と薪の前で虫を採っていたときである。目の前に3匹のカミキリムシが姿を現した。どれも珍品だ。「しめた!」と手を出そうとした。すると、その前にA氏が採ってしまった。その採り方がすごい。まず右手で1匹つかみ、左手で1匹を押さえこんだ。当然、残りの1匹は私が採れると思った。ところが、A氏はそれをさせなかった。その虫も口でくわえてしまったのである。この強欲さ。腹が立った。しかし、こうでもしなければ虫は採れないのだと痛感した。これが教訓となって、私も欲丸出しの採集をするようになった。こうした採集時のエピソードは虫仲間の誰しもが持っていた。それをS商会で話し合い、笑ったものだ。そのうち定連9人とは、夜に居酒屋で語りあうようになった。これが楽しかった。今では味わえない独特の雰囲気だった。そのメンバーも次々と天国へ旅立ち、残ったのは私1人。さびしくなった。改めて時の流れを痛切に感じる。さようならAさん。天国で皆が待っているよ。合掌。



多治見市の森林づくり

多治見市の森林づくり施策を紹介します。



森林の概要

多治見市は、岐阜県の南南東にあたり、東経137度8分、北緯35度20分に位置し、名古屋から北東に36キロ、JR中央本線、太多線など東濃の交通拠点であり、国道19号線、248号線、さらに市北部に中央高速自動車道が東西に走り、東濃地方の産業、経済、文化の中心地であるとともに中部経済圏の一翼を担う重要な位置にあります。昔から陶磁器産業が盛んな地域で、丘陵地の所々に古い窯跡があり、窯を焼く用材を山から切り出し、また、落葉も田畑の肥料として山からの多大な恩恵を受け大切に育てていました。本市の総面積は、9,125 haであり、そのうち森林面積は4,240 haと市全体の46%を占めています。森林面積の内訳は、民有林が4,032 ha、国有林が208 haとなっており、1 ha当たりの蓄積は112 m³となっています。民有林は、スギ・ヒノキ・マツ等の針葉樹を主体とした人工林が、1,781 ha(民有林の44%)、蓄積136千m³、広葉樹を主体とした天然林が2,102 ha(民有林の52%)、蓄積92千m³、その他の竹林、無立木地等

が333 ha(民有林の8%)となっています。

今では、生活環境の変化のため、山への関心が薄れており、中でも特に間伐の対象となる林分が増えて、その実施が望まれるところでありますが、林道・作業路等の未整備地域の存在や材価の低迷等により、思うように進まないのが現状です。

県産材利用施設紹介

●多治見市火葬場「華立やすらぎの杜」

S造一部RC造2階建2,934 m²
木製備品導入(H28・4・1)



●星ヶ台保育園

S造平屋建1,912 m²
内装・木製備品導入(H28・4・1)



●精華小学校付属愛児幼稚園

S造2階建1,300 m²
内装・木製備品導入予定

かさはら潮見の森

この森は、岐阜県が生活環境保全林整備事業として整備されたものです。また、公園整備事業として多治見市が、皆様に保健教養の場を提供し、国土の保全機能を向上させるために整備されています。遠く伊勢湾を望むことのできる景勝の地にあることから、「潮見の森」と名付けられたものです。施設内には、アスレチック・芝生広場・展望台・薬草園があります。また、薬草園には、2,052 m²の敷地に約110種類1,000本の薬草を育てています。

多治見三郷活性協議会紹介

この協議会は、多治見市の甘原町・三の倉町・諏訪町の農村地区の活性化のために地元有志で作られた協議会です。新しい農産物の生産体制の構築や販促活動、PR活動を通して地域を活性化させるために活動しています。この地域の自然環境・歴史文化・伝統行事・地元特産品(いちご、ブルーベリー、もみじ、マイクロ野菜)等の資源が豊富にあり、多くの方にこの地を訪れ地域の良さに触れていただきたいと計画中です。

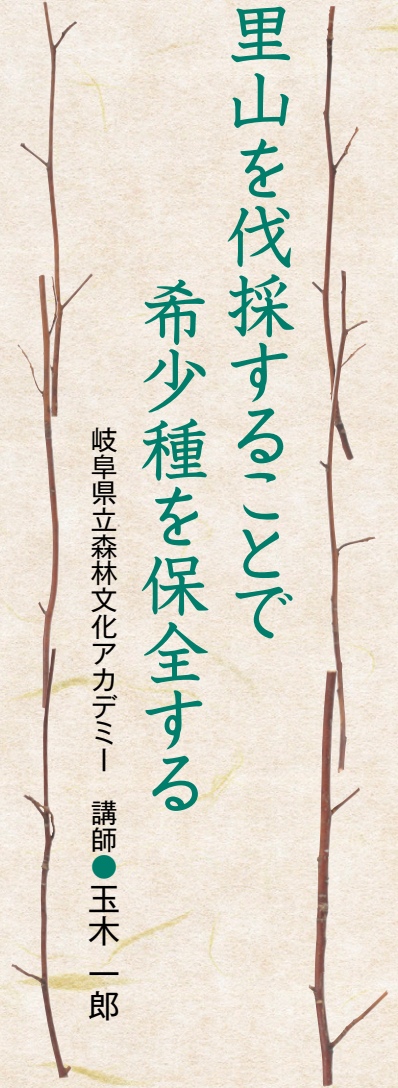
●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0572-2211268

多治見市役所産業観光課農林グループまで

里山を伐採することで希少種を保全する

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 玉木 一郎



萌芽更新してきました。ただし、追試の場所は伐採の数年前にマツ枯れでギャップができたために、既に埋土種子の多くが発芽してしまっており、この伐採ではそれほど実生更新は生じませんでした。

このように小面積皆伐で遷移の進行を止めることは、シデコブシはもちろんのこと、湿地の生態系を回復させる上で有効であると考えられます。ただし、追加で伐採した場所では、ササ(コンゴウタケ)の勢いが強く、2年目には伐採地全体に高さ1m程度までササが繁茂してしまいました。萌芽は成長が早いので問題はないのですが、実生は成長が遅いために、ササに埋もれてしまい、更新がうまくいかなくなる可能性があります。このような場所で実生更新を期待する場合は、実生が大きくなるまでの数年の間、ササ刈りをする必要があるかもしれません。

まうのはいかなものか？逆に絶滅を早めてしまうのではないか？と思われる方もいるかと思いますが。そこで、多治見市と地元ボランティアに協力してもらい、多治見市のシデコブシ自生地の一部を小面積皆伐する実験を行ってみることにしました。

2012年1月に30m×10mの範囲を皆伐し、その後、毎年経過を観察しました。皆伐直後と5年後の様子を写真に示しました。伐採されたシデコブシの9割以上は根株から萌芽更新し、

さらに埋土種子からシデコブシの実生も更新してきました。また、伐採前は見られなかった湿地性の植物であるホザキノミミカキグサやミミカキグサも出現しました。湿地の水位も伐採前より高くなりました。2015年1月に追試でもう一箇所伐採したのですが、そこでも同様にシデコブシは



▲多治見市のシデコブシ自生地を小面積皆伐した直後と5年後の様子

東海地方の里山の希少樹木の一つに、シデコブシ(モクレン科モクレン属)があります。花が美しいので庭に植えてあることも多く、ご存じの方も多いかと思いますが。このシデコブシですが、現在、多くの自生地で絶滅が危惧されています。シデコブシは小高木のため、樹高が高いものでも10m程度にしか成長できません。植生遷移が進行し、コナラやソヨゴなどの周りの樹木が大きくなると、被圧されたシデコブシは衰弱してしまいます。衰弱したシデコブシは花を咲かせることができなくなり、さらには枯死してしまうのです。またそのような暗い環境では実生も発芽できなかつたり、発芽したとしてもほとんど成長できません。

なぜこのような状況が生じているのでしょうか？その原因の一つに里山利用の放棄が挙げられます。1960年代ごろまでは、里山の樹木は主に燃料として利用されていましたが、燃料革命以降、ほとんど利用されることがなくなりました。その結果、植生遷移が進行してしまっ

岐阜県の東濃地域には地質の関係で100m以下の小さな湿地がたくさんあります。そこにはシデコブシをはじめとした湿地に固有の植物が多く生育しています。このような湿地は斜面崩壊で形成されるのですが、時間が経つにつれ植生遷移が進行し、数十年から100年程度で発達した森林に戻ってしまいます。木は水を吸い上げるため、木を伐ることで湿地の乾燥化を防ぐことができます。里山の利用はこのような小さな湿地を保つ役割も果たしていました。

シデコブシや湿地に生育する生物を保全するためには、植生遷移の進行を止める必要があります。かつての里山利用を再現してやることで、それが可能になるはずです。燃料を採取するための里山利用では、20年程度の周期で小面積の森林を皆伐し、樹木を林外に持ち出していました。シデコブシも、軽くてよく燃えることから、焚付に使われていたそうです。つまり、シデコブシも含めて全て伐採し、林外に持ち出してやれば良いのです。

希少種であるシデコブシを伐採してし

揖斐川町立 やまと・きたがた幼稚園

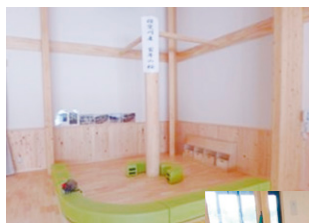
岐阜県揖斐郡揖斐川町房島124番地



施設全景

● 施設概要

事業年度	平成27～28年度
事業主体	揖斐川町
構造・ 延床面積	木造（一部RC造・鉄骨造）平屋建 1712.02㎡
施設用途	保育所
木材使用量 使用樹種	289.6㎡ スギ、ヒノキ
全体事業費	429,840千円（建築）
助成額	清流の国ぎふ森林・環境基金事業 20,621千円 市町村子ども・子育て支援事業費補助金 7,600千円
設計者	内藤設計事務所
施工業者	株式会社 久保田工務店
工期	平成28年6月10日～平成28年12月26日



● 施設の経緯

旧きたがた幼稚園の老朽化や近隣の旧やまと幼稚園との効率化のため、2つの園を統合し、やまと・きたがた幼稚園を建設することとなりました。

揖斐川町では第二次総合計画にて「安心な暮らしをみんなで支えるまち」を基本目標のひとつとし、優しい子育て環境の充実を積極的に推進しています。

本施設は木造平屋建で、木材をふんだんに使用し、木の良さを感じられる園舎となっています。



● ここに注目!!

● 内装材にもスギ、ヒノキを使用しており、木の良さを感じられるぬくもりある施設となっています。

また、遊戯室の一角には平成27年度の「全国育樹祭」開催時に町内を巡った揖斐川町産ヒノキを展示柱として設置しており、町民の思い出のある空間にもなっています。

● 利用者の様子

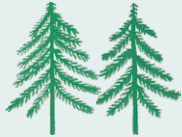
● 児童たちも木の良さを感じながら、元気に活動しています。

■問い合わせ先
揖斐川町 子育て支援課
TEL 0585-22-2111



森林が少ない都市部での普及活動

～森林配置計画の作成と身近な施設での県産材活用を通じて～



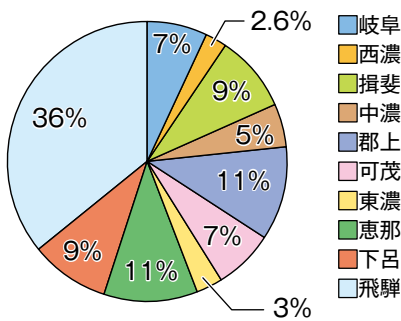
■西濃農林事務所 福田 五月

西濃管内の森林の状況

2市6町からなる西濃農林事務所管内の人口は、岐阜地区に次いで多く、約30万3千人、県人口の14・9%を占めています。一方森林は、総面積2万3千ha弱、県内森林に占める割合は2・6%であり、最も森林面積が少ない地域です。南東部を中心に農地が広がり、工場や商業施設も多く見られます。市町ごとの森林率(全面積に占める森林の割合)は、県平均に近い関ヶ原町から、まったく森林のない神戸町・輪之内町・安八町まで大きな差があります。関ヶ原町には、択伐林施業で名高い今須地区があります。全体としては森林や林業に対する関心が高いとは言えません。

このような状況の西濃管内では、どのような課題を解決するための普及活動を展開していくとよいのでしょうか。

農林事務所別 森林面積



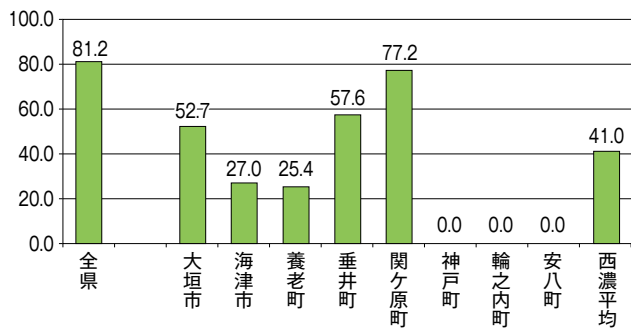
課題1 地域の林業の育成

森林面積が少なく、地元の林業事業者は森林組合しかないようなこの地域では、人工林面積も少なく、林業活動が活発とは言えません。

しかし、少しずつではありますがこれまで数十年にわたって造林・保育を続けてきた結果、7〜12齢級のスギ・ヒノキ人工林が5千ha弱になっています(県森林簿データより)。

この資源をいかに利用し、地域の林業を育成していくかが課題だと考えられます。

西濃農林事務所管内の市町の森林率



100年先の森林づくりを考える 森林配置計画作成

第三期岐阜県森林づくり基本計画が策定され、この計画に基づき市町村は、平成34年3月までに森林配置計画を策定することになりました。これまでの林業経営は、めまぐるしく変化する社会経済情勢や、補助制度、所有者の方針に大きく影響を受けてきました。ここで改めて、自然条件や路網などの客観的基準を基に、長期的な視点で、木材生産に適した「木材生産林」と、それ以外の「環境保全林」にわけられるものです。



▲森林管理委員会の開催状況

西濃管内で森林を有する5市町では、既存の森林管理委員会等の中で森林配置計画の検討を進めています。市町には、

林務経験が浅い職員も多く、配置計画の基準や現状の説明、市町の配置計画案の作成にあたっては、担当普及指導員を中心に資料の提供や森林所有者・森林組合などの関係者との連絡調整を行いました。

市町ごとの森林の状況を改めて把握する作業の中で、これまでの実施の実績や地域の森林の特徴などを再認識できました。今後は、配置計画を基にして、特に木材生産林でどのような施策をしていくのか、議論を深められるよう指導していきたいと考えています。

林業事業体の育成

西濃管内の林業を担っていく主要な事業体は西南濃森林組合になります。間伐や主伐・再造林の推進には、森林組合に対する普及活動が重要になってきます。

そこで、1カ月に1回程度、農林事務所林業課の森林整備を担当する係長・担当者、普及指導員が森林組合に出向き、組合職員と打ち合わせを行っています。森林整備事業の進捗状況の把握や補助事業実施の注意点などの情報交換を行い、森林整備の速やかな実施を図っています。今後の組合の組織や事業計画についても、長期的な展望の必要性や、行政側の支援状況や市町との連携について、連絡調整・指導をしています。

課題2 木材の需要拡大を進める

西濃管内は、森林面積が少ないのですが、人口は多く、木材消費地としての可能性が高い地域です。この地域での木材、特に県産材の利用を進めることは、管内だけでなく県内の林業・木材産業の振興に寄与するはずです。

公共施設等での木材利用

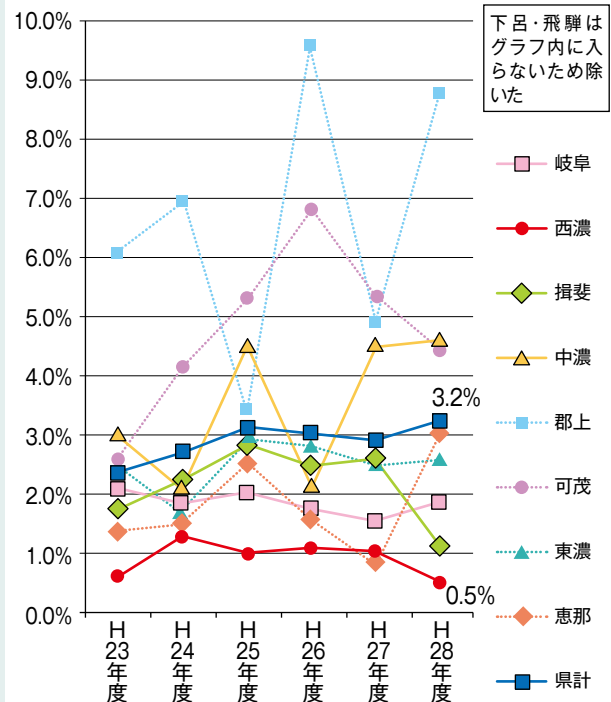
公共施設等では、少しずつ木材の利用が進んできました。



▲保育園の木製遊具で遊ぶ園児たち

大垣市や垂井町では庁舎の新築・移転の際に、住民の目に触れやすいロビー等を中心に地元の木材を使用した内装を計画しています。「木材をきっかけにして、地域の森林資源に目を向けてもらえるよ

新築木造一戸建てに占める補助申請件数の割合



う、取り組んでほしい」という森林所有者、林業グループ会員、製材業者などの声を市町に伝える活動が実を結び始めています。

木材利用に対する県の補助事業の説明を積極的に行うことで、子育て世代が利用する施設においても県産材の利用が進んできました。床や壁を中心に県産材を多用した保育園舎、子育て支援センターへの木製家具・遊具の導入などです。直接木材に触れ、その良さを感じた親子が毎年着実に増えています。

一方、住宅建築における県産材利用はあまり芳しくありません。

木材の主要な使い道は、やはり住宅建設です。県では、県産材を使用した住宅建設に対する補助制度を設け、需要拡大

を進めています。近年、西濃管内では1年間に1500棟程度の新築木造一戸建てが建築されています。この中で県の補助制度を申請したのは多くて20棟程度であり、その比率は1%前後、県全体の約3%に比べると低い数値です。森林や木材に関する情報が少ないことが理由の一つと考えられます。

今後は、前述した公共施設や子育て関連施設での木材利用拡大の動きと連携して、住宅建築における県産材の利用拡大につなげる活動を展開していきたいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0584-173-1111

西濃農林事務所まで

今、サクラが危ない！ クビアカツヤカミキリに注意を

森林研究所 ● 大橋 章博

2017年はヒアリが国内で見つかり、大きな話題となりました。近年、経済のグローバル化とともに、外来生物の侵入が増え問題となつていきます。その中の一つにクビアカツヤカミキリがあります。放っておくと、将来花見ができなくなるのでは、と危惧されています。

そこで、今回はクビアカツヤカミキリについて紹介します。



写真1 クビアカツヤカミキリ成虫 (左：♂、右：♀)

クビアカツヤカミキリとは

体長25〜40mmの大形のカミキリムシです(写真1)。

本種の本来の分布地域は、中国、朝

鮮半島、ロシアとされています。2012年に愛知県で初めて確認され、現在では、栃木、群馬、埼玉、東京、大阪、和歌山、徳島の8都府県で定着が確認されています。侵入経路は、輸送用の木製パレットの内部に幼虫が潜り込んだまま持ち込まれ、国内で羽化・脱出したのではないかと考えられています。

国内ではサクラ(ソメイヨシノ)、スモモ、ウメ、モモを加害することがわかっています。原産国では、このほかにカキ、ハコヤナギ属、ヤナギ属、コナラ属などの樹木も加害するようですが、国内では確認されていません。

成虫は、6〜7月頃に木から脱出すると、すぐに交尾し、樹皮の裂け目に産卵します。野外で実際どれだけ産卵するのかはわかっていませんが、飼育下では1匹のメスが1000個以上産卵した例もあることから、繁殖力が高いと考えられます。ふ化した幼虫は、樹皮下に穿孔し、形成層を食害して、2〜3年かけて成虫になります。幼虫が生育すると、ミンチ状のフラス(木

くずと糞が混じったもの)を坑道から排出します(写真2)。これが被害発見の目印となります。多数の幼虫に食害された木は枯死することもあります。カミキリ侵入後、多くの地域で被害が周囲の市町村に拡散しています。現在、被害は並木や公園に植栽された桜にとどまっています。山の中のヤマザクラ等へ拡がると手の施しようがなくなるため、早期の対策が大切です。



写真2 幼虫が排出したフラス

防除対策は

現在、防除対策として、次のようなことが行われています。①幹にネットを巻きつけて、木から羽化してきた成虫を捕殺する。②樹皮を削って、中にいる幼虫を掘り取る。③フラスが出てくる穴に針金を差し込んで幼虫を殺す。④フラスが出ている穴に殺虫剤を

注入する。⑤被害木を伐倒し、粉砕または焼却処理する。
①から④は手間がかかる一方で、見落としがあったりすると効果は半減します。⑤の伐倒処理が最も効果的なのですが、木が枯れていない場合、サクラの伐採に当たっては、地元の合意形成が困難となり、思うようにできないのが現状です。



写真3 樹皮を削って掘り出した幼虫

早期発見が大切

幸いにも岐阜県ではまだ被害は見つかっていません。被害の定着を防ぐには、被害を早期に発見し、侵入初期に駆除することが非常に重要です。

もし、サクラの木からフラスが出てくるのを発見したら、森林研究所へご連絡ください。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで

治山・林道研究課題

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。昨年2月に行われた県の発表会（本誌763号18～19ページ）を経て、9月に東京で行われた第57回治山研究発表会で発表した研究課題を紹介します。

治山事業における針広混交林への取り組みについて

恵那農林事務所 森林保全課 正村 慎也・神戸 努・兼松 佑樹

はじめに

今回、中津川市中津川前山地区（対東谷）の木材生産を断念した40・9haの森林（ヒノキ林21・7ha・広葉樹林等19・2ha）について、長期的な視野で針広混交林化への整備方針を整理し、今後取り組むこととしたため、その内容を紹介する。

整備森林の現況

当地区のヒノキ林は、平均胸高直径が17・9cmであり、成長が非常に悪く、また、全体的にリター層及び森林土壌が流亡している。また、広葉樹林も下層はササ覆地であることから、天然更新木の稚樹の生育が阻害され、樹種構成がかなり単純化しており、生物多様性保全機能が低下している。

針広混交林の整備方針決定

整備方針は次の4つのステップを経て決定した。

① 目標とする森林の設定

「森林の多面的機能を向上させるための林況づくり」とした。

② 広葉樹の誘導方法の検討

風・鳥による散布とした。

③ 林分別目標林型の設定

表1のとおり

林分	ヒノキ林	広葉樹林
将来目標	主に広葉樹が上層木を占める林分 ※ヒノキについては、100本/ha程度を残存（伊勢神宮宮域林を参考）	上・中・下層の各階層が健全に発達し、周囲の林分へも広葉樹林を供給できる生物の多様性に富んだ林分
当面目標	流亡した土壌（リター層）の生成 【広葉樹の誘導方法】 風・鳥 【誘導樹種】 先駆性の陽性植物	ササを除去し、少しでも多くの樹種を誘導 【広葉樹の誘導方法】 鳥 【誘導樹種】 先駆性の陽性植物

表1

④ 具体的な整備方針の設定

下層植生が消失しているため、通常の本数調整伐を実施したのち、強度な抜き伐りによる本数調整伐と群状本数

調整伐を計画した。【図1】

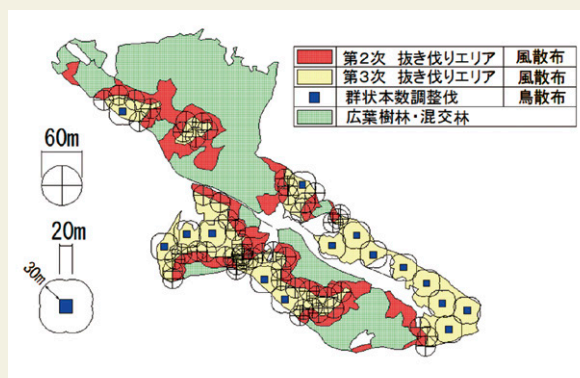


図1

順応的管理による目標の見直し及び整備内容の決定

針広混交林化は、不確実性が高く、結果を予測して計画を立てることが困難であるため、整備後モニタリングを実施し、その結果により将来目標や当面目標の見直しを行うと共に、見直された当面目標に沿った整備内容を決定していくこととした。

最後に

今回「針広混交林化」を具体的に考えることにより、それぞれの現場で明確にしなければならぬこと、実施し

ながら確認修正すべきことのポイントが明らかとなった。

●「現状分析による針広混交林化の必要性の整理」

皆伐後の一斉造林と異なり、多種多様な状況からのスタートとなるため、現状を正確に把握するとともに、「なぜ、この森林を針広混交林に導く必要があるのか」という点を「公共事業の説明責任」の観点からもしっかり整理しなければならぬ。

●「暫定的な将来目標の設定と当面の目標の設定」

短期の施業のみでは結果が出ないことから、スタート時点では修正を前提とした「仮目標」であってもよい。

●「根拠付けた整備内容の決定」

公共事業として実施することから、整備内容を具体的に契約相手方や実行機関に示すことが必要。

●「順応的な管理が必要」

前例や指標がないことから、PDCAサイクルに則った順応的管理を継続していく必要がある。

以上のように、針広混交林化は、長期的なモニタリングと、その都度の目標林型及び整備内容の修正が必要である。

中途半端な整備で終わらないよう頑張っていきたい。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0573-126-1111

恵那農林事務所まで

「100年先の森林づくり発表会」を開催しました

岐阜森林管理署 主任地域林政調整官 大島 愛彦

林業普及指導員 全国シンポジウムに参加

本題に入る前に、12月5日に農林水産省の講堂で行われた林業普及指導員全国シンポジウムで国有林を代表して発表しました。

発表者は全国の各ブロックで最優秀賞に選ばれた林業普及指導員6名と、国有林代表の私を合わせた計7発表。私は、昨年度の中部森林技術交流発表会、岐阜県森林・林業関係合同発表会、今年度の林業普及指導員中部・北陸ブロックシンポジウムでも発表したケーススタディ地区の2年間の取組内容について紹介しました。

発表時にケーススタディ地区を知っているかと参加者に問いかけたところ、挙手した人が数名おり、各森林管理局でケーススタディ地区に取り組んでいることがわかりました。参加された都道府県の林業普及指導員等120名に取組を紹介でき、林野庁が進めるケーススタディ地区の知名度向上が図れたものと嬉しく思っています。



▲林業普及指導員全国シンポジウム。林野庁長官と記念撮影

「100年先の森林づくり発表会」を開催しました

11月号で参加者募集の広報にご協力いただきましたました標記発表会について、11月16日(木)に下呂総合庁舎大会議室で開催し、大会議室の定員130名のところ157名の参加があり、盛況に開催することができました。

目的は地域の人たちに森林・林業を普及啓発すること。森林・林業の発表会を地域主体で、国、県、市の共催で開催するのは岐阜県で初めての取組ということもあり、事前広報、事後広報もNHK、新聞、ケーブルテレビで発表の様子が紹介され、より多くの人に取組を伝えることができました。共催の下呂農林事務所、下呂市の皆様にお礼申し上げます。

また、発表会の成果をチェックし、今後の参考とするため、参加者アンケートを実施しました。意見として、地域の森林・林業の取組を知ってもらうスタートになった。森林・林業の課題を多くの人に伝えることができた。一般参加者が多く、今までに無い大変良い発表会であった。伐期を迎え、100年先の森林づくりの必要性がわかった。国有林及び森林管理署の存在を強くアピールできた。地域への情報発信に効果的であり、引き続きの取組が必要と継続を望む声が多く聞かれました。

改善点として、専門的な言葉や表現は使わず、わかりやすい内容に努めること。参加者と発表者の交流や、子供たちが関心を持つ内容、森林所有者の問題解決につながる勉強会が必要という意見がありました。

アンケート結果を基に、来年度以降は、例えば午前中は発表会、午後は分科会として子供向けイベントや森林所有者相談会を取り入れるなど、今年度の反省を活かす方法を考えたいと思います。



▲発表会の事前広報で、下呂のケーブルテレビに出演



▲発表会の様子。多くの方にご来場いただきました

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 050-3160-6090(代)

岐阜森林管理署まで



森林・山村多面的機能発揮交付金について



森林・山村多面的機能発揮交付金は、3名以上の地域住民等で構成する団体が実施する地域の里山の保全や利用活動に対して、国が一定の費用助成を行うものです。

岐阜県では、平成29年度は31団体がこの交付金を活用して、里山の保全活動を実施しています。対象となる森林は、森林経営計画（及び森林施業計画）が策定されていない森林であって、活動組織と森林所有者が利用協定を締結している森林です。要件を満たしていれば、学校林や公有林でも活用できます。費用助成は、活動タイプによって異なります。主なものは、地域環境保全タイプ（里山林保全活動）と森林資源利用タイプは12万円/ha、地域環境保全タイプ（侵入竹除去・竹林整備）は28.5万円/haで、その他に作業路・歩道の開設、教育・研修、資機材の購入にも助成があります。なお、1活動組織当り、単年度500万円を上限とします。毎年、3月末までに岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会に申請書を提出して頂き、審査の上採択の決定を行っています。興味のある方は、下記までご連絡下さい。

【問い合わせ先】

岐阜県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会（公益社団法人 岐阜県山林協会内）
〒500-8356 岐阜市六条江東2丁目5番6号 ぎふ森林文化センター内
TEL：058-273-7666 FAX：058-273-3933 E-mail：sanrinag@quartz.ocn.ne.jp



森林・林業関係イベントカレンダー（2月）

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
2月7日(水)	刈払機取扱作業者 安全衛生教育	●講習時間：9:20～15:00 学科 15:00～16:30 実技 ●申込：開催日の10日前まで ●受講料：11,340円（本代含む）（振込み） ●定員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
2月8日(木)～ 2月9日(金)	伐木・チェーンソー 作業従事者 特別教育	●講習時間：8日 8:30～17:40 学科 9日 8:30～17:30 実技 ●申込：開催日の10日前まで ●受講料：18,900円（本代含む）（振込み） ●定員：30名（定員になり次第締め切ります。）	8日（学科）ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） 9日（実技）岐阜県森連岐阜林産物共販所 （関市倉知字物見山4660-16） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



COLUMN

早いもので森林のたよりの編集委員となり2年近くが経過しました。作る側としても携わっている森林のたよりですが、誌面を読み返してみると、岐阜県の政策紹介だけではなく各地でのイベント・取り組み・森林に生息する生物についての話など、多岐にわたり充実した内容になっていることに改めて気づかされます。内容が充実しているだけでなく、一般の方から内容の問い合わせをいただくなど、多くの方に読んでいただき身近に感じていただいていることも実感しています。充実した内容に加え、幅広い多くの読者がいるのは、誌面作成に携わった方々の積み重ねた努力の証です。この成果を途切れさせることなく、さらによりよい内容とし多くの方に読んでいただける情報誌となるように、今後も携わっていかねばと考えています。

「森林のたより」編集委員 岡本 卓也

イベント情報

3月1日発行

連載

- 山の歳時記 (151)
- 山のおじゃまむし (320)

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵 (63)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築 (61)

森の名手・名人

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政 (15)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

3月号
予定

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1646回 岐阜共販所 初市 1月16日	すぎ	3 m	16~18cm	12,500	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16~18cm	11,400	—	
		4 m	20~22cm	13,500	—	
			24~28cm	12,700	17,000	
			30cm以上	12,500	21,000	
	ひのき	3 m	16~18cm	17,000	—	
			20cm以上	15,800	—	
		4 m	16~22cm	16,800	—	
			24~28cm	14,500	—	
			30cm以上	16,500	—	
第1223回 飛騨共販所 初市 1月12日	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—	
			24~28cm	12,000	—	
		30cm以上	12,000	22,000		
	ひのき	3 m	16~18cm	16,000	—	
			20~22cm	15,500	—	
		4 m	24~28cm	15,000	—	
	30cm以上	16,000	55,000			
		6 m	16~20cm	—	—	
	まつ	4 m	24~28cm	9,000	—	
			30cm以上	10,000	21,000	
ひめこ		4 m	24~28cm	16,000	—	
		30cm以上	16,000	23,000		
5 m	30cm以上	—	—			
くり	4 m	24cm以上	20,000	34,000		
第1556回 東濃共販所 初市 1月11日	すぎ	3 m	16~20cm	12,700	13,400	
			22~28cm	12,900	14,700	
		30cm以上元	13,300	—		
	ひのき	3 m	16~20cm	17,200	33,000	
			22~28cm	14,900	33,000	
		30cm以上元	19,900	49,000		
			13cm以下	9,000	—	
		4 m	22~28cm	15,200	28,000	
			30cm以上元	20,000	65,000	
	6 m	18~20cm	27,600	30,400		
まつ	4 m	22~28cm梁	7,500	—		
30cm以上元	10,000	—				

木材市場

全般的に横ばい(弱含み)で推移

【商況】

スギ並材3m(16~24cm)は不足しており強含み。スギ4m元木良材、品薄により高値。スギ構造向け並材、合板向け、かなり不足。ヒノキ並材4m土台取り強含み、造材は4m(16~22cm)が有利。ヒノキ二番中目材は荷動きも少なく、弱含み。製紙パルプ向け針葉樹、かなり不足。一方、製紙パルプ向け広葉樹原木は受け入れ制限。予定される方は共販所担当者まで、一報ください。(岐阜)

スギ並材3m・4m(16~24cm)不足。需要期を迎えヒメコ、マツ、広葉樹は応札多く人気。スギ4m元木、二番ともに中目、中目上不足しており強含み。広葉樹は相変わらず人気で特にサクラ、マクルミが強気。広葉樹は入荷が薄い状態となっています。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m・3m・4m・6mは、応札多く横ばい。ヒノキ並材は3m・4m(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札多くやや高値、二番玉並材は3m・4m(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(スギについては、県内新工場稼働(長良川木協)につき今後原木の流れが良くなるが、荷不足感が強い。)(東濃)

製品卸売標準価格 (12月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
		3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松) 特等	65,000	(2,808)	→
W集 ウ成 ド材	柱	6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
		3000	105	105	国産5層	59,000	(1,950)	→
3000	120	120	国産5層	60,000	(2,580)	→		

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (12月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	310	米栂	へム(アラスカ産)	299
	コースト(目荒)	313	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)



はがらざい 羽柄材

木材用語一口メモ

「構造材」の対義語で、板類、小割材などの非構造の下地材、筋違(すじかい)、タルキ、間柱、根太などの総称。「葉柄材」や「端柄材」とも表記されます。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建築用語辞典